

## 62th Annual Meeting of American College of Sports Medicine における研究発表

長谷川 太一\*

### はじめに

今回、平成27年5月26日から5月30日の日程でアメリカ合衆国サンディエゴにて開催された62th Annual Meeting of American College of Sports Medicine（第62回アメリカスポーツ医学大会：以下、ACSM）に参加し、これまで我々が行ってきた研究成果の一部を発表する機会を頂いたので、学会大会の様子および私の発表内容についてここに報告する。

### ACSM について

ACSMは体力・スポーツ医科学の研究分野に関する世界最大級の学会であり、年に一度Annual Meetingを開催している。今回の第62回大会では約5千名が参加し、大会期間中はスポーツ医科学を研究領域とする研究者や学生によって活発にディスカッションや意見交換が行われていた。

学会大会では、一般発表に加え「Clinical Exercise Physiology」, 「Metabolism and Nutrition」, 「Skeletal Muscle, Bone and Connective tissue」など多岐にわたるテーマでシンポジウムが開催された。いずれの内容も興味深かったが、その中から自分の研究テーマと関連があるシンポジウムを中心に参加した。（写真1）

### 研究発表について

私が今回発表した研究はテーマが「Effects of Nordic Walking on Functional Fitness and Gait in Frail Older Adults」であり、その内容は地域在住の虚弱な高齢者を対象として、7週間のノルディックウォーキング運動介入がFunctional fitnessおよび



（写真1）学会会場の San Diego Convention Center

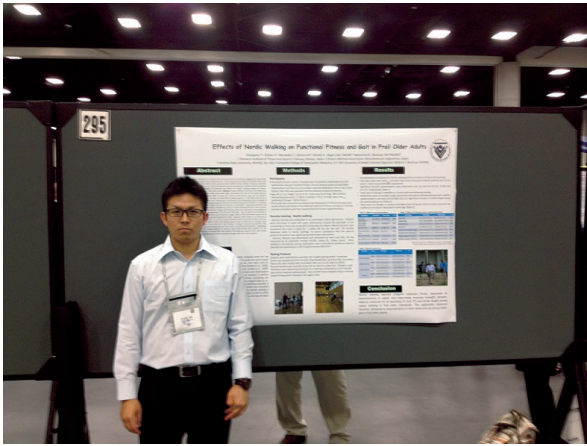
歩行能にもたらす影響について検証したものであった。発表はポスター形式で行い、国内外の学生、研究者から多数の質問を受け、ノルディックウォーキング運動介入がもたらす運動効果の有用性を発信することができた。今後は本研究を論文発表していきたいと思う。

学会参加の初日は、自身の英語力の拙さから、欧米諸国の人々の英語を聞き取ることに精一杯でディスカッション中に何度も相手に聞き返すことがあった。しかし、現地で過ごす時間が経つにつれ、次第に会話を聞き取ることができるようになり余裕を持ってディスカッションを行えるようになった。今回の学会参加では、国内では経験することができない刺激を受けることができ、今後修士論文を作成していくにあたり有意義な経験となった。（写真2）

### 終わりに

今回の発表は私にとって初めての学会発表であり、それが海外での発表であったため発表の準備

\* 鹿屋体育大学 大学院体育学研究科 修士課程2年



(写真2) 筆者の発表の様子

期間から、発表に至るまで終始緊張感を抱いていた。非常に有益な経験となった一方で、研究力や英語力で実力不足を痛感させられた。今後もこのような国際学会へ参加できるよう更に努力していきたいと思う。

最後に、本学会大会への参加および発表にご理解と多大なるご支援いただきました竹島伸生教授、藤田英二講師および共同研究者の皆さま、本学職員の皆様に厚く感謝の意を表します。